

「映像情報メディア学会誌」和文論文投稿規程

2016年3月28日 改定

(「映像情報メディア学会誌」和文論文投稿規程と「映像情報メディア学会誌」和文論文等投稿原稿執筆の手引きを統合)

(1986年6月1日一部改定)	(2005年6月9日一部修正)
(1989年6月15日一部改定)	(2005年10月19日一部修正)
(1991年4月1日一部改定)	(2006年3月15日一部修正)
(1994年6月16日一部改定)	(2007年12月21日一部修正)
(1997年1月1日一部改定)	(2011年6月14日一部修正)
(1997年6月6日一部改定)	(2011年9月28日一部修正)
(1997年8月1日一部改定)	(2012年4月1日一部修正)
(1998年1月1日一部改定)	(2012年6月1日一部修正)
(1998年6月15日一部改定)	(2012年11月30日一部改定)
(1999年2月1日一部改定)	(2013年2月8日一部改定)
(1999年11月17日一部改定)	(2013年5月27日一部修正)
(2000年12月19日一部改定)	(2013年7月24日一部改定)
(2002年6月3日一部改定)	(2013年12月15日一部改定)
(2002年12月16日一部改定)	(2014年2月20日一部改定)
(2003年6月6日一部改定)	(2014年4月1日一部改定)
(2004年2月6日一部改定)	(2015年3月27日一部改定)

1. まえがき-----	1
2. 投稿欄の種別と内容-----	1
3. 投稿時の注意事項-----	1
3.1 投稿者の資格-----	1
3.2 投稿原稿の条件-----	1
3.3 他誌への投稿との関連-----	2
3.4 投稿の手続-----	3
4. 投稿原稿の取扱い	
4.1 受理手続-----	3
4.2 査読-----	3
5. 論文等の構成と体裁-----	4
6. 動画コンテンツ提供のお願い-----	4
7. 執筆上の注意事項	
7.1 原稿の長さ-----	5
7.2 作文上の注意事項-----	5
7.3 原稿作成時の注意点-----	5
7.4 図、表などの書き方とページ数換算法-----	6
(図面の著者作成に関する諸注意, 作成見本等含む)	
7.5 文献の書き方-----	7
7.6 LaTeX で作成した版完全版下提出上の注意事項-----	9
8. 校正-----	9
9. 掲載料-----	10
10. 別刷-----	10
11. 著作権-----	11
付録 雑誌名略記一覧-----	13

一般社団法人 映像情報メディア学会

105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 403号室

TEL 03-3432-4677 FAX 03-3432-4675

e-mail:ronbun@ite.or.jp <http://www.ite.or.jp>

1. まえがき

本会誌は、会費を負担されている多数の会員に対し、広く新しい技術情報・事業化情報を提供し、また、研究発表を行う場であって、本会が、一般の会員に直接サービスする最も重要な手段の一つである。

その中で投稿欄（論文、動画付き論文、フィールド論文、動画付きフィールド論文、研究速報、動画付き研究速報これすぼんでんす）は、映像情報メディアに寄与する新しい研究開発や応用結果、事業化工夫、事例研究、統計調査などの発表の場を提供するものである。

したがって、本欄への投稿者は、多くの会員に読まれること、また、読んでもらうことを常に念頭におき、限られたページ数の中で、なるべくわかりやすく内容をまとめるように工夫していただきたい。

なお、本会誌の技術解説、研究動向など依頼原稿の執筆については、「依頼原稿執筆のしおり」を参照されたい。

2. 投稿欄の種別と内容

投稿者は投稿しようとする内容によって下記のいずれの欄が適当かを判断し、ページ数、体裁などを決める。

欄名	内容の定義	ページ数
論文	映像情報メディアに関連する独創的な研究結果の報告、あるいは会員の参考となるような新しいデータ、設計資料、施設計画資料をまとめたもの。	原則として* 6ページ以内
動画付き論文	論文に相応しい内容であって、その成果が動画に反映されるものであり、成果を示す動画が添付されたもの。	論文のページ数に準ずる
フィールド論文	映像情報メディアの産業や事業及びその関連分野を研究対象とした起業工学領域あるいは技術経営領域の報告、あるいは会員の参考となるような新しいデータ、実用化工夫、事業化工夫、事例研究、統計調査等をまとめたもの。	原則として* 6ページ以内
動画付きフィールド論文	フィールド論文に相応しい内容であって、その成果が動画に反映されるものであり、成果を示す動画が添付されたもの。	フィールド論文のページ数に準ずる
研究速報	新しい着想や工夫および研究成果を速報するもの。	原則として* 3ページ以内
動画付き研究速報	研究速報に相応しい内容であって、その成果が動画に反映されるものであり、成果を示す動画が添付されたもの。	研究速報のページ数に準ずる
これすぼんでんす	会員による既発表論文への討論や学会に対する建設的意見、あるいは会員一般に特に関心をもたれる事項に関する論説、意見あるいは情報などを発表するもの。	原則として* 3ページ以内
会員の声	学会活動／サービス等、学会全般に関する会員からの建設的な意見、提案	原則として* 数行～1ページ

* 編集委員会が特に認めた場合は、この限りではない。ただし、制限ページを越えた分に対しては、別刷割増料金が適用される。

3. 投稿時の注意事項

3. 1 投稿者の資格

投稿原稿の著者は、本会会員であることを原則とするが、本会活動に適合する内容のものであれば、この限りではない。ただし、非会員の原稿が採録される場合には、掲載割増料金を適用する。（9. 掲載料の項参照）

3. 2 投稿原稿の条件

原稿の主文章は日本語であること。

3. 3 他誌への投稿との関連

投稿論文（論文、動画付き論文、フィールド論文、動画付きフィールド論文、研究速報、動画付き研究速報、これすぼんでんす）は未発表のものに限る。

同一内容のものが同一著者、もしくは、その中の少なくとも1名を含む著者によって他の公開出版物に投稿されている場合は、これを二重投稿とみなす。採録決定以前に、二重投稿と判断された場合は、当該論文を直ちに返戻する。また、採録決定後掲載以前に他誌に掲載された場合は、採録を取り消す。投稿受付日1ヵ年を経過しても原稿の採録が決定されない場合は、他誌への投稿を妨げない。

なお、以下の(a)-(c)いずれかに該当する場合は、例外として二重投稿にはあたらないものとする。ただし、本誌に投稿した論文中で脚注や参考文献の形で引用すること。

(a) 既発表ではあるが、その一部を深く解析または実験、あるいは、その工夫を詳述し、その部分にオリジナリティあるいは主張すべき点が認められるもの

(b) 研究速報欄に掲載されたものを一層充実させて論文として投稿したもの

(c) 研究会、大会などの学術講演、国際会議などにおける口頭発表論文（予稿集・プロシーディング等）を、論文、動画付き論文、フィールド論文、動画付きフィールド論文、研究速報、動画付き研究速報、これすぼんでんすとして投稿したもの。ただし、投稿する場合は、発表内容に手を加えることが望ましい。

[既発表のものとは、国内、国外の学会誌、機関誌、商業誌、などに、その主要な部分が掲載されたものを意味する。]

論文掲載後に、二重投稿の疑いが生じた場合、論文委員会は、他学会等と連絡を取りながら、調査を行い、その結果、二重投稿と判断した場合は、以下の処分を科す。

- (1) 当該投稿論文、および当該投稿論文の(共)著者1名以上を含むすべての投稿中論文の即時の不採録
- (2) 二重投稿先に対する周知
- (3) 投稿論文の全著者に対する本会の全論文誌および学会誌への1年以下の投稿禁止
- (4) 掲載論文の削除をした上で、周知文を論文誌（オンラインジャーナル）および学会誌等に掲載する

3. 4 投稿の手続

投稿に際しては、当学会ホームページ上の論文投稿画面に必要事項（*印を入れたもの）を入力し、必要な電子ファイルをアップロードする。

欄名	必要事項、およびファイル	連絡先* 和文・英文の表題・著者名・	6個以内のキーワード*	口頭・研究速報等の 発表日・発表誌*	1200字のあらまし*	4000字または 1200字のあらまし*	希望審査分野*	原稿ファイル（本文、図・表等のPDF） （アップロード）	動画ファイル（複数の動画ファイルでもよい） （アップロード）	著者顔写真 （アップロード）	著作権譲渡書 （アップロード）
論文	○	○	○	○	○ ⁴⁰⁰	○	○	○	○	○	○
動画付き論文	○	○	○	○	○ ⁴⁰⁰	○	○	○	○	○	○
フィールド論文	○	○	○	○	○ ⁴⁰⁰	○	○	○	○	○	○
動画付きフィールド論文	○	○	○	○	○ ⁴⁰⁰	○	○	○	○	○	○
研究速報	○	○	○	○	○ ¹²⁰	○	○	○	○	○	○
動画付き研究速報	○	○	○	○	○ ¹²⁰	○	○	○	○	○	○
これっぽんです	○	○	○	○	○ ¹²⁰	○	○	○	○	○	○
会員の声*							○（本文のみ）				○

*：「会員の声」の欄への投稿は下記学会事務局までお問い合わせ下さい。

執筆の手引およびマイクロソフトWordのテンプレート、L a T e Xで原稿を作成するI T Eスタイルファイルは、下記のホームページから取得することができる。また論文投稿に関する問い合わせ先は下記のとおりである。

105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 403 号室
 一般社団法人 映像情報メディア学会 事務局 論文係
 TEL 03-3432-4677 FAX 03-3432-4675
 e-mail:ronbun@ite.or.jp http://www.ite.or.jp

4. 投稿原稿の取扱い

4. 1 受理手続

- (1) Web 上の投稿手続きを完了した日をもって「受付日」とする。受付完了後に直ちに投稿者に受領メールが送付される。
- (2) 照会後の訂正原稿の Web 上での再提出日をもって「再受付日」とする。

4. 2 査読

- (1) 投稿された原稿は、本会論文委員会の和文論文運営委員が選定した査読者により査読される。
- (2) 査読者は、原則として論文、動画付き論文、フィールド論文、動画付きフィールド論文は2名、その他は1名とするが、和文論文運営委員会が必要と認めた場合は、追加される。
- (3) 和文論文運営委員会は、査読者の提出した査読報告に基づき、書面審査にて判定を行う。論文の最終的な採否は、和文論文運営委員と和文論文運営委員長・副委員長からなる和文論文運営委員会にて決定する。
 (a) 採録 (b) 条件付採録 (c) 返戻
- (4) 査読は2回までとする。
- (5) 照会后3ヵ月以上経過してから提出された原稿は、新規に投稿されたものとする。
- (6) 採録が決定した場合は、採録順に掲載予定号を決め、投稿者に通知する。ただし、和文論文運営委員会が必要と認めた場合は、掲載順序を変更することがある。
- (7) 返戻と決定した場合は、返戻の理由を付して投稿者に通知する。

5. 論文等の構成と体裁

論文等はあくまでも読者に読んでもらい、理解してもらって初めて価値が生ずる。決して著者のひとりよがりであってはならない。

限られたページ内で研究成果をどのように表現するか、どうしたら読者に主張を理解してもらえるかについて全体の構成を充分練ったうえで執筆にかかる必要がある。

論文、動画付き論文、フィールド論文、動画付きフィールド論文の書き方については、常識的に一つの型があるので原則的に以下の例にならって体裁を整えていただきたい。

研究速報、動画付き研究速報は、速報性が重要であるので、下記に準じてより簡潔にまとめる。

- (1) 表 題 簡潔に、その内容を具体的に表すように工夫する。
- (2) あらまし 内容の要約を書く（論文、動画付き論文、フィールド論文、動画付きフィールド論文の場合は、400字以内、研究速報、動画付き研究速報、これすぼんでんすの場合は120字以内）。研究の目的、理由、手法、結果などを含めて本文の内容の要点が理解できるようにする。
- (3) まえがき 研究分野における主題の位置づけ、背景、意義、従来との関係で、どこに新規性があるなどを述べる。
- (4) 本 文 内容の本筋が充分読者に理解できるよう記述する。重複や冗長な表現は避け、要点を有効に読者に伝えるように努力していただきたい。
 - (a) 専門用語や概念にはなるべく説明をつける。
 - (b) 結果は図や表にまとめるとわかりやすいことが多い。
 - (c) 数式は主題の論旨の展開に必要な程度にとどめ、長い誘導式が必要な場合は付録にする。
- (5) む す び この研究によって得られた結果と意義を簡単にまとめ、将来に残された問題点などにもふれる。
- (6) 謝 辞 簡潔に書く。形式的謝辞よりも、実際に誰に感謝すべきかについて充分配慮する。むすびの最後に含める。
- (7) 文 献 文献は、読者の理解を深めるために必要であるばかりでなく、著作権との関連や、著者の研究の範囲を明確にするなど重要な意味をもっている。したがって、直接関連のある重要な文献は必ず明記する。読者が一般に入手可能なものとし、私信等はなるべく避ける。
- (8) 付 録 長い数式の誘導、実験装置の詳しい説明などが特に必要な場合は、その部分を付録にすると論旨が明確になり、論文全体のバランスもよく、読みやすい。

6. 動画コンテンツ提供のお願い

動画付き論文、動画付きフィールド論文、動画付き研究速報以外でも、内容の理解促進につなげることを目的に、ホームページで公開している論文目次と連動する動画コンテンツの付録公開を推進しています。採録が決定した論文等の内容に関連する公開可能な動画がありましたらご提供いただきたく、最終原稿を提出いただく際にご検討ください。

動画コンテンツは、J-STAGE 論文閲覧ページへの掲載、YouTube あるいは著者指定の URL へのリンクとして公開致します。また、要件は下記のとおりです。

- (1) コンテンツの公開期間：J-STAGE での公開の場合は、JST（独立行政法人 科学技術振興機構）の規定に従うものとする。YouTube 等での公開の場合、該当する論文等の公開日から少なくとも1年間は、著者の責任において閲覧可能とする。
- (2) 動画コンテンツ容量：J-STAGE での公開の場合は、コンテンツ個数は1論文：最大5ファイル、総容量は1論文：最大50MBまでとする。YouTube 等での公開の場合、公開可能な個数、容量であればよく、特に制限は定めない。
- (3) 論文等の審査との関係：動画コンテンツはあくまでも論文等の採録決定後に提出いただくものであり、該当する論文等の審査過程では、動画コンテンツは一切使用しない。
- (4) 動画コンテンツ提供の手続き：動画コンテンツの掲載を希望される場合は、最終原稿提出時に、J-STAGE での公開の場合は、下記形式ファイルを原稿と共にご提出下さい。YouTube あるいは著者指定の URL での公開の場合は、その URL をお知らせ下さい。
- (5) 著作権：動画コンテンツの内容や該当論文等との関係についての適切性、リンク切れ等の閲覧に関わる事故、その他、著作権問題を含む動画コンテンツ掲載に関わる諸問題は、すべて著者の責任において対応することとし、本会は一切の責任を負いませんのでご留意下さい。

<J-STAGE 電子付録での公開形式>

①ファイル種別

■画像

bmp, gif, jpeg, jpg, tiff, rgb, xbm, xwd

■動画画像

mpeg, mpg, mpe, qt, mov, avi, movie, igs, iges, msh, mesh, silo, wrl, vrml, wmv, mp4

■音声

au, snd, mid, kar, mpga, mp2, mp3, aif, aiff, aifc, ram, rm, rpm, ra, wav,

■文書

html, htm, asc, txt, rtx, rtf, sgml, sgm, xml, pdf, dvi, LaTeX, TeX, TeXinfo, TeXi

◆書庫

lzh, cpio, Z, gtar, gz, tar, zip

※一覧にはありませんが、Word, Excel も使用可能です。閲覧者のPCに上記ソフトがない場合は、表示できませんのでご注意下さい。

- ②ファイルサイズ
1論文あたり，最大 50MB

- ③ファイル数
1論文あたり，最大 5ファイル

また電子付録には，そのデータのタイトル（英語は必須，日本語は任意）を記載下さい。

7. 執筆上の注意事項

論文は任意の文書作成ツールを使って作成した通常形態での投稿と L a T e X を用いて作成されたカメラレディ版完全版下形態での投稿に分けられる。（論文審査用に提出される原稿ファイルはこれらの形態で作成されたファイルを PDF に変換したものとする。）ここでは主に通常形態での執筆時の注意事項を記載する。L a T e X で作成した完全版下作成時の注意点は 7. 6 を参考にされたい。

7. 1 原稿の長さ

- (1) 投稿原稿 1 編の刷上りページ数は下記のとおりとする。

欄 名	ペ ー ジ 数
論 文	原則として * 6 ページ以内
動画付き論文	原則として * 6 ページ以内
フィールド論文	原則として * 6 ページ以内
動画付きフィールド論文	原則として * 6 ページ以内
研 究 速 報	原則として * 3 ページ以内
動画付き研究速報	原則として * 3 ページ以内
これすぼんでんす	原則として * 3 ページ以内
会 員 の 声	原則として * 数行～1 ページ

*制限ページを超えた分に対しては掲載割増料金が適用される。

- (2) 会誌刷上りページ数は，表題（8行分），あらまし（xx 行分～xx 行分），図，表，写真，参考文献，筆者紹介（5行／1人）を含んでいるため，執筆に際しては，その分量を考慮し本文を作成しなければならない。〔7. 4 参照〕
動画付き論文，動画付きフィールド論文，動画付き研究速報の，動画は刷り上がりページ数に加算しない。

7. 2 作文上の注意事項

- 原稿は特別の場合を除き，常用漢字，新かなづかい，アラビア数字を用いる。用語は，原則として本会編集の「映像情報メディア用語辞典」および「文部科学省 学術用語辞典—電気工学編—」にならう。したがって，3音節以上の英語のつづりの終わりの -er, -or, -ar など を仮名書きにする場合には，語尾の調音符号「ー」は略す。なお，-gy, -py などは調音記号を付ける。
（例）センサ，コンピュータ，エネルギー，メモリー
なお，用語統一のため，編集段階で手を加えさせていただくことがあります。
- 数式は別行として書く。上付き，下付き等が原稿上に明示されない場合，太字使用の指定がある場合等は朱記する。複雑な式は数行を用いる。
- 単位は S I 単位を用いる。
- ギリシャ文字，ドイツ文字などの混同しやすいものは朱記する。
- 専門的な略語は，（ ）付きで Full Spell を添付するか，脚注として解説しておくことが望ましい。
- 特殊な専門用語は，脚注として解説しておくことが望ましい。
- 人名，地名などでやむを得ないものを除き，なるべく和文を用いる。
- 英単語を使用する場合は原則として，始めの英文字は大文字を使用する。

7. 3 原稿作成時の注意点

- ファイル形式
LaTeX の ITE スタイルファイル，または，マイクロソフトの Word のテンプレートで作成・レイアウトされた原稿ファイルを，pdf に変換したファイルを論文審査用原稿とする。採録が決定した時点で印刷原稿作成時に別途テキストファイルや図・表のオリジナル原稿を提出する。
- 図表，数式および特殊文字
論文審査用 PDF ファイル作成時に図表の挿入位置や数式，そのほかの特殊文字が正しく表示されるか確認

すること。

(3) テキストファイル作成時の注意点

論文審査，または印刷原稿用テキストファイルの作成時には必要に応じて下記事項に注意すること。

(ア) 使用文字

J I S 第 1 水準，第 2 水準全角文字，半角文字，J I S に含まれる記号等の使用を原則とする。
印刷で使用するのは文字情報のみであるので，アスキーコード中のコントロール記号は改行マークを除き含まない形式とする。

(イ) 文章形式

- ◎改行マーク：段落の終わりのみに入力，行の自然折り返しの所には入れない。
- ◎空白：段落始めの 1 字アケ以外は，空白文字をできるだけ使わない。したがって，インデント，センタリングは使用しないこと。
- ◎欧文，数字，アルファベット：欧文の大文字，1 桁の数字は全角で，その他はすべて半角とする。
- ◎句読点：すべて全角のピリオド[.]，カンマ[,] を使う。
- ◎数式：数式入力ツールで本文中に挿入する。論文審査用 PDF ファイル作成時に正しく表記されているか確認すること。
- ◎表：図・写真と同様，別のファイルで提出するか，原稿ファイルに挿入する。
- ◎特殊文字（ルビ，上付き，下付き等），および J I S コードにない特殊文字，外字等：論文審査用 pdf ファイルを作成した際に正しく表記されているか確認する。
- ◎イタリック，アンダーライン，倍角文字，網掛け文字等の文字飾り：写植データ変換時に無視されるうえ，写植データ変換後の処理にかえって手間取るので使用しないこと。
- ◎その他：音引き（一）とマイナス（-）は混同しないように注意する。

(ウ) 原稿の構成

◎LaTeX の I T E スタイルファイルフォーマット，または，マイクロソフト Word のテンプレートを
使用する場合は，その書式に従う。

(4) その他

(ア) ハードコピー原稿

原稿は規定のフォーマットで作成された電子ファイルでの投稿を原則とするが，必要に応じてハードコピー原稿の提出を求めることがある。

(イ) 原稿の修正

採録が決まり次第，編集上の修正（用語の統一，図面修正等）を事務局がハードコピーに赤字を入れフィードバックするので，それに従い，修正してファイルを提出すること。提出された媒体は返却しない。

（お願い）電子ファイルの取扱には十分注意するが，編集過程において破損することも考えられるので，バックアップを必ず手元に保管すること。

(ウ) 図面の作成

図は提出された原図またはデータを使用する。図面の作成方法については，別掲 7. 4 「図面の著者作成に関する諸注意」 を参照すること。

7. 4 図，表などの書き方とページ数換算方法

- (1) 完成図面の原稿は，下記「図面の著者作成に関する諸注意」に従って作成する。

「図面の著者作成に関する諸注意」

原則として，完成図面を提出する。

図面は，以下の注意事項を熟読し，見易い図面を作成する。また，図面の印刷原稿は，投稿論文の採録が決まり次第，事務局が図面コピーに赤字を入れフィードバックするので，それに従い，図面を修正して完全版下を送ること。提出された図面版下は返却しない。

なお，この時点で，学会の有料トレースサービスを選択することもできる（掲載に要する時間は 1 ヶ月余分に必要）。

論文投稿時に提出される図面は，未トレースのものでもよい。

- (a) 図面の仕上がりサイズ（幅）は，片段使用の場合には 75mm，両段使用の場合には 160mm である。

文字の大きさは仕上がりサイズで 7 ポイント（高さ約 3.0mm）を基準としている。

（注：1 ポイント = 1/72 インチ（≒0.353mm）。1 級 = 0.25 mm）

- (b) 図面中で使用する言語は，日本語とすること。ただし英語での記載が適切と判断される部分（専門用語，単位等）は，この限りではない。

- (c) 使用するフォントは，明朝体。（英語の場合は Times または明朝体）とする。

- (d) 図面は，

a) D T P ソフト等により，線画と文字を一括して作成する方法

b) 墨入れ等により線画を作成し，別途印字した文字をきれいに貼り込む方法の何れかの方法により作成する。

- (e) 作成される図面（原画）の大きさは任意。一つの図面内の文字の大きさは統一する。例えば，特定部分に小さい文字を詰め込むことや，グラフの目盛りに極端に小さい文字を使用するといったことは，行わないこと。

- (f) 印刷図面の品質を一定に保つために，使用されるプリンタの解像度により，原図の最小倍率を次のとおりとする。レーザビームプリンタ（L B P）等の印字品質の良いプリンタを使用する場合の

原図の倍率の目安を以下に示す.

$$\begin{array}{l} M=600/R \\ F=3,600/R=6M \end{array} \quad \left[\begin{array}{l} M: \text{作成する図面の倍率} \\ R: \text{プリンタの解像度(dpi)} \\ F: \text{使用文字のサイズ(ポイント)} \end{array} \right]$$

例えば, 300dpi の L B P を使用される場合, 仕上がりに対して 2 倍以上の大きさで, 12 ポイント以上の文字を使用して作成する. L B P 以外のプリンタの場合には, そのプリンタの印字品質にあわせて若干大きめの倍率で作成する. なお, ドット数で規定された文字を使用する場合には, 1 文字 48 dot を目安にする.

(g) 作成した図面を提出前に実際に印刷される大きさに縮小コピーし, 図面の見易さを確認する.

(h) なお, 送付された図面が, 学会事務局で印刷に不適性と判断した場合には, 修正をお願いすることがある. また, 図面が極端に不鮮明等の場合には, 学会事務局においてトレース(費用は著者負担)を行うことがある.

(2) ページ数(原稿行数)換算方法

刷上りページ数が, 著者の見積ページ数より増加する原因のほとんどは, 図, 表などの行数換算のくい違いにあるので, 以下の点について充分留意されたい.

(a) 刷上りの図, 表が和文・英文の説明を含めて会誌片段(たて, よこ 7 cm 程度)に入ると思われる場合は 15 行分と換算する.

(b) 刷上りの図, 表が両段にわたり, 上記寸法より大きくなると思われる場合, 例えば, 会誌 1 ページの 1/2 を要する図は, 1 図が約 50 行分であり, 1 ページ全体を要するような表の場合は, 1 表で約 98 行分と換算するなど, その大きさに応じて, 余裕をもって換算する(1 ページ 2 段組 98 行となる.)

(c) 写真についても, 図, 表と同様に換算する.

(d) それらの行数換算分を, 本文, 表題, 和文あらまし, 文章, 参考文献, 筆者紹介などの行数を加算し, 換算する.

(3) その他の注意事項

(a) 図, 表の中に入れる数字, 語句, 単位などは, 本文中で使用したものと同一のものをを用いる. ただし, 回路図などにおいて, すでに明らかな単位記号は略してもよい.

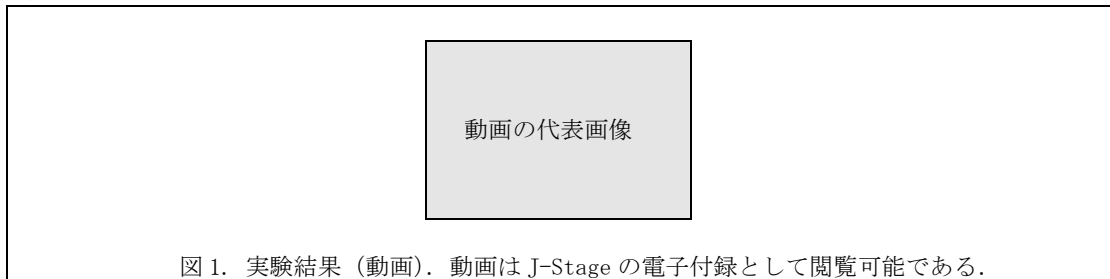
(b) グラフ図の場合は縦軸, 横軸の説明, 単位(単位はカッコで囲む), および示すべき原点がある場合は, その原点を明記する.

(c) カラーの図表や写真の掲載を推進し, 論文等における多彩な表現を支援する.(カラー化による割増掲載料金は発生しない.)

(d) 図, 写真, 表などを他の文献からそのまま引用する場合は, その出典を明記する.

(f) 動画付き論文, 動画付きフィールド論文, 動画付き研究速報の場合, 動画へ直接リンクを張ることができないため, 動画の代表画像等を図として示し, 図のキャプションに動画ファイルの参照方法を示す.

(例)



(g) 動画付き論文, 動画付きフィールド論文, 動画付き研究速報の動画ファイルは, 本文とは別に作成する.

1. 動画ファイルは結合せず, 一つの図に一つの動画ファイルが対応するように作成する. 動画ファイルの命名規則は” video-<no>_<description>.mp4”とする. <no>は図表番号, <description>は説明である. 例えば, 本文の図 1 に対応する動画をアップロードする場合は, ” video-1_experimental_results.mp4”などとする.

2. 動画ファイルのサイズは, 合計で 20 MB 以下とする.

3. 動画のファイル形式は指定しないが, 多くの読者が動画を再生できるように, 一般的なファイル形式とすることが望ましい. 投稿者は投稿時に動画再生環境をカバーレターに明記する. 動作推奨環境が特殊であり査読が困難である場合は返戻と判定する場合がある.

7. 5 文献の書き方

(1) 記入の方法

(a) 文献は, 本文中で引用してある箇所の右肩に, 通し番号を小カッコ(右側の片カッコのみ)をつけて小さく書き, 引用番号順に並記する.

(b) 雑誌名はわかりやすいものは略記する(付録 雑誌略記一覧参照).

(c) 巻の数字は太字にする.

(d) 発行年はカッコ内に入れ, 西暦年号で(1981)のように記入する. なお, 雑誌で発行年月, 発行年月日が必要な場合は(Aug. 1981)あるいは, (Aug. 1, 1981)のように記入する.

(e) 英文はタイプする. その場合, 前置詞, 冠詞以外の単語の頭は大文字とする.

(2) 表示方法

文献は、科学技術の調査活動に有力な手段として活用されているので、その表示は下例にならって正確に書く。

(a) 図書の場合

著者名、書名、ページ、発行所、発行地、発行年月の順で表示する。ただし、図書全体を引用したときは、ページの項を省略する。

(例1) 図書全体を引用した場合

- 1) A. Rosenfeld and A. C. Kak : "Digital Picture Processing" , Academic Press, New York (1976)
- 2) 映像情報メディア学会編 : "カラー画像工学" , オーム社 (1997)

(例2) 図書の一部を引用した場合

- 1) V. K. Zworykin and G. A. Morton : "Television", John Wiley & Sons, Inc., New York, pp. 927-957 (1954)

(b) 雑誌の場合

著者名、表題、雑誌名、巻、号、ページ(通巻ページを付しているものは通巻ページ)、発行年月の順に表示する。

(例1)

- 1) L. D. Miller : "A New Method of Specifying the Resolving Power of Television Camera Tubes Using the RCA P-300 Test Chart", SMPTE J., **89**, 4, pp. 249-256 (Apr. 1980)

(例2)

- 1) 半谷 : " デジタルインタフェースの基礎" , 映情学誌, **51**, 1, pp. 52-57 (Jan. 1997)

(例3)

- 1) W. N. Charman : "Three-Dimensional TV System", Appl. Opt., **20**, 1, pp. 14-16 (Jan. 1, 1981)

(c) 双書等の場合

双書、シリーズもの、年鑑などの場合は、著者名(または書物全体の編者名)、著作中の記事または一部分の表題、書物の表題、巻号、ページ、発行所、発行地、発行年の順に表示する。研究会技術報告の場合は、巻号とページの間に研究会略称による資料番号を記入する。

(例1)

- 1) M. Jacobsen : "Picture Enhancement for PAL-Coded TV-Signals by Digital Processing", 1981 Picture Coding Symposium, 7. 5, pp. 69-70 (June 1981)

(例2)

- 1) テレビジョン学会編 : "画像技術とカラーテレビジョン" , テレビジョン・画像工学ハンドブック, pp. 65-66, オーム社(1980)

(例3)

- 1) 内藤, 川田, 松本 : "MPEG-2 における各種動き補償方式の比較検証" , 映情学技報, **21**, 7, IDY 97-59, PP. 1-6 (Feb. 1997)

(3) ページ数換算方法

2行程度の文献は、13件で約24行分に相当する。

7. 6 L a T e Xで作成した完全版下提出上の注意事項

I T Eスタイルファイルを用いてL a T e Xで作成された完全版下を提出することにより、安価な別刷料金を選ぶことができる。ただし、いくつかの条件がある。

- (1) 文章形式
本学会が定めたI T Eスタイルファイルフォーマットに基づいて、そのまま版下となるカメラレディ原稿を提出する。
- (2) 原稿のページ数や作文上の注意点
原稿のページ数や作文上の注意点に関しては7. 1, 7. 2を参考のこと。
- (3) 図・表や文献の書き方
図・表や文献の記載法に関しては前記7. 4, 7. 5を参考のこと。
- (4) 注 意
 - ◎採録が決まり次第、編集上の修正（用語の統一等）を、事務局がハードコピーに赤字を入れフィードバックするので、それに従い、版下を修正して完全版下およびPDFを送ること。提出された版下は返却しない。また、著者による修正ができない場合は、カメラレディ方式ではなく、従来方式にすることがある。
 - ◎True 600dpi以上のページプリンタによって印刷したものを提出すること。
 - ◎カメラレディ提出後は、原則として著者による校正はない。
 - ◎スタイルファイル変更、あるいはそれに準ずる方法によるフォーマットの変更（例えば、文字のサイズや行間の変更）は原則禁止する。スタイルファイルの使用法や制限等については、同時に配布されるreadme.texを参照すること。

8. 校 正

- (1) 原稿の校正は、下記のとおりを行う。
 - (a) 初 校 著者（一部事務局、LaTeX原稿の場合は、完全版下原稿を提出するため、行わない。）
 - (b) 再 校 事務局（原則）
- (2) 著者校正時の書き加え、書き改めは原則として認めない。

9. 掲 載 料

投稿原稿が掲載された場合は、原則として掲載料の支払いが義務づけられている。なお、ページ数は、査読照会時の加筆修正の助言や試算ページ数の如何にかかわらず、印刷仕上りのページ数によることとする。掲載料金は次のとおり定める。

【TeXによる投稿の場合】

1) <論文><動画付き論文><フィールド論文><動画付きフィールド論文>掲載料金（税別）
（単位：円）

ページ数	掲載料
1	12,000
2	25,000
3	36,000
4	48,000
5	60,000
6	72,000
7以上	6ページ分の金額に、1ページ当たり25,200円を加算する。

2) <研究速報><動画付き研究速報>掲載料金

3ページまでは、<論文>掲載料金表を適用。4ページ以上は、1ページ当たり25,200円を加算

3) <これすぽんでんす>掲載料金

3ページまでは、<論文>掲載料金表を適用。4ページ以上は、1ページ当たり25,200円を加算

(注)・当学会の学生会員が筆頭執筆者である論文等の掲載料金は、上記料金表による金額の90%とします。

・投稿者および連名者がすべて会員外の場合は1論文当たり20,000円を加算します。

【TeX以外による投稿の場合】

1) <論文><動画付き論文><フィールド論文><動画付きフィールド論文>掲載料金（税別）
（単位：円）

ページ数	掲載料
1	22,000
2	44,000
3	66,000
4	88,000
5	110,000
6	132,000
7以上	6ページ分の金額に、1ページ当たり37,800円を加算する。

2) <研究速報><動画付き研究速報>掲載料金

3ページまでは、<論文>掲載料金表を適用。4ページ以上は、1ページ当たり37,800円を加算。

3) <これすぽんでんす>掲載料金

3ページまでは、<論文>掲載料金表を適用。4ページ以上は、1ページ当たり37,800円を加算。

10. 別 刷

会員・非会員を問わず希望者には別刷りを販売する。別刷りはモノクロのみとする。

販売価格（最低部数：10部購入）

会 員：500円（1部 税別）

非会員：700円（1部 税別）

11. 著作権

本会の会誌に掲載される記事の著作権は、原則として本会に帰属しますので、譲渡書をご提出下さい。

近年、あらゆる場面で権利主張が行われる事態が予想されるため、下記のとおり「著作権規程」を制定し、著作者から譲渡書を提出してもらい、著作権の譲渡を明確にしております。

これにより、著作権の不測の事態を未然に回避するとともに、第三者による侵害に対しては、著者ととも学会が対処することを明文化し、著作者の権利保護に当たりたいと考えておりますので、当会発行物にご執筆いただく方々には、原稿提出の際、譲渡書の提出にご協力下さい。

また、学会帰属の主な目的は、会誌CD-ROM版や学術情報学研究所電子図書館に採録するためと、著作権保護です。営利目的で他誌に同文で執筆する場合は、ご本人による執筆の場合でも当会へお申し出いただく必要がありますが、非営利目的であれば、著者ご自身は自由にご使用いただけます。

著作権には、電子的形態による利用も含まれます。その運用方法は次のとおりです。

- (1) 著者自身が自分の記事を複製・翻訳・翻案などの形で利用することは差支えなく、また、本会はこれに対してして異議申立てをしたり、妨げることはいたしません。翻訳利用、および記事を全面的あるいは大部分を営利目的の他の著作物に利用する場合には、その旨本会（事務局）に申し出いただくとともに、出典を明記して下さい。

なお、Web、CD-ROM等に利用する場合にも、同様にお申し出下さい。

また、一部分を利用する場合には、図説の下に出典を明記して下さい。

- (2) 下記のような特別な事情で著作権の本会への帰属が困難な場合には、脚注にて、「本稿の著作権は、著者に帰属する。」といった具合に著者に帰属させることも可能ですので、お申し出下さい。

(a) 大会の特別講演記事などで、特に著者が著作権の移転を望まない場合。

(b) 記事内容が、著者個人のみでなく、著者の所属する機関などに係るもので、著作権の帰属に関し、所属機関の了承が得られない場合。

ただしその場合は、すでに下記3件の二次利用の予定がありますので（非営利目的で実際の公開は先になります）、逆にその転載許諾をいただきたく存じます。先に許諾をいただくことが可能であれば、すぐに当会からの「転載許諾願い」を作成し、申請いたします。当会は非営利団体ですが、万が一、この許諾に関しましても、「否」のご回答の場合は、2次利用掲載の際に貴稿部分を省くようにいたします。

〔現段階での二次利用の収録先予定〕

- 1) 『映像情報メディア学会誌 DVD-ROM（会員への無料配布、会誌隔年の4月号に添付予定）
- 2) 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 電子図書館 CiNii (URL : <http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp>) 掲載後3ヶ月経過した後に公開。登録機関外および非会員には2年後から公開。
- 3) 独立行政法人科学技術振興機構 J-STAGRE (<http://info.jstage.jst.go.jp/>)

以上の方針をご了承いただいたうえで記事原稿を作成されることを希望いたします。

また、他誌から本誌に引用される場合は、次のことに充分留意して下さい。

- (1) 引用する文献の著作権に充分注意して下さい。
- (2) 図面・表・写真を他の図書、雑誌などから引用する場合には、事前に、その著者および出版社の了承を得て下さい。

著作権規程

2002年12月16日 制定
2008年7月30日 一部改定
2012年4月1日 一部改定

- 第1条 この規程は、一般社団法人映像情報メディア学会（以下、本会という）が編集または発行する著作物の著作権に関する基本的事項を定める
- 第2条 本規程に用いる用語の定義は以下の各号に定めるとおりとする
1. 著作権 著作権法第21条乃至28条に規定するすべての権利をいう
 2. 著作物 著作権法第2条第1項第1号に規定する著作物をいう
 3. 著作者 著作権法第2条第1項第2号に規定する者をいう
- 第3条 本会が編集または発行する著作物の著作権は、原則として本会に帰属させる
- 第4条 著作者から本会への著作権の譲渡は、別に定める著作権譲渡書を提出することにより成立する
- 2 著作権譲渡書に記載された著作物が編集または発行に至らないことが明らかになった時点で提出された譲渡書は無効とし、本会から著作者に返却する
 - 3 特別な事情により前条の原則が適用できない場合は著作者からの申し出により協議する
 - 4 前項の特別な事情は著作権が所属機関等にあるなど譲渡が困難な場合、および本会から著作者に特別な依頼をした場合を含む
- 第5条 著作者がその著作物に関わる本会に帰属する著作権を著作権法第30条乃至43条で定める制限を越えて利用する場合は、原則として事前に本会の許諾を必要とする
- 2 著作者が著作物の利用を営利目的としない場合は、前項に拘わらず本会の許諾を要しない
 - 3 第1項により著作者が著作物の利用を許諾された場合、および第2項の場合において、著作者は当該著作物に関わる著作権が本会に帰属していることを明記して利用する

- 4 著作者がその著作物に関わる本会に帰属する著作権を著作権法第30条乃至43条で定める制限の範囲内で利用する場合は、各条の定めるところに従う
- 第6条 本会が編集または発行する著作物の内容に関して第三者と紛争があるときは、当該著作物の著作者が当事者として処理する
- 第7条 第三者により本会に帰属する著作権が侵害された場合は、本会が当該著作者と相談してその侵害を排除する等これを処置する
- 第8条 本規程の施行以前本会が編集または発行した著作物については、この規程を準用する
-

なお、近年、下記のとおり著者の皆様からご提供いただいた動画コンテンツを公開しておりますが、動画コンテンツの著作権に関しましては、著者に帰属しております。譲渡していただく必要はありませんので、お含み置き下さい。

付録. 雑誌略記一覧

1. 国内雑誌

略 語	雑 誌 名
映像学誌	映像情報メディア学会誌
映像学技報	映像情報メディア学会技術報告
映像学××研資	映像情報メディア学会××研究会資料
20××年映像学年次大	20××年映像情報メディア学会年次大会講演予稿集
20××年映像学冬季大	20××年映像情報メディア学会冬季大会講演予稿集
応用物理	応用物理学会誌
第××回応物春季予稿集	第××回春季応用物理学関連連合講演会講演予稿集
第××回応物秋季予稿集	第××回秋季応用物理学学会学術講演予稿集
画電学誌	画像電子学会誌
平成××画電学全大	平成××年度画像電子学会第参画△△回全国大会予稿集
計測制御	計測と制御
情報処理	情報処理
情処学論	情報処理学会論文誌
情処学××研資	情報処理学会××研究会資料
第△△回情処学全大	情報処理学会△△回（平成××年前（後）期）全国大会講演文集
照学誌	照明学会誌
精 機	精密機械
平××精機学会春（秋）	平成××年度精密機械学会春（秋）季大会学術講演会講演論文集
テレビ誌	（旧称）テレビジョン学会誌
テレビ学技報	（旧称）テレビジョン学会技術報告
テレビ学××研資	（旧称）テレビジョン学会××研究会資料
19××年テレビ全大	（旧称）19××年テレビジョン学会全国大会講稿集
19××年テレビ年次大	（旧称）19××年テレビジョン学会年次大会講稿集
電学誌	電気学会雑誌
電学論	電気学会論文誌
電学××研資	電気学会技術委員会××研究会資料
平××電学全大	平成××年度電気学会全国大会講演論文集
信学誌	電子情報通信学会誌
信学論	電子情報通信学会論文誌
信学技報	電子情報通信学会技術研究報告
平××信学総全大	平成××年度電子情報通信学会総合全国大会講演論文集
平××信学△△全大	平成××年度電子情報通信学会△△部門全国大会講演論文集
平××連大	平成××年電気・情報関連学会連合大会講演論文集
平××△△連大	平成××年（度）電気関係学会△△支部連合大会講演論文集
応用磁気誌	日本応用磁気学会誌
応用磁気第××回研資	日本応用磁気学会第××回研究会資料
第××回応用磁気学術講演	第××回日本応用磁気学会学術講演概要集
音響誌	日本音響学会誌
音響学会××研資	日本音響学会××研究会資料
機学誌	日本機械学会誌
日写誌	日本写真学会誌
日写春（秋）大	日本写真学会春（秋）季研究発表会予稿集
心 研	心理学研究
日心大	日本心理学会第××回大会発表論文集
物学誌	日本物理学会誌

2. 歐 文 雜 誌

略 語	雜 誌 名
Appl. Opt.	Applied Optics
Appl. Phys. Lett.	Applied Physics Letters
Aviation Week & Space Tech.	Aviation Week & Space Technology
BBC Research Dept. Rep.	BBC Research Department Report
Bell Labs Tech. J.	Bell Labs Technical Journal
Broadcasting & Cable	Broadcasting & Cable
COMSAT Tech. Rev.	COMSAT Technical Review
EBU Tech. Rev.	EBU Technical Review
Electron. Lett.	Electronics Letters
ESA Bull.	ESA Bulletin
ESA J.	ESA Journal
IBM J. Res. & Dev.	IBM Journal of Research and Development
IEE Proc. Circuits, Devices & Syst.	IEE Proceedings Circuits, Devices and Systems
IEE Proc. Commun.	IEE Proceedings Communications
IEE Proc. Microwaves Antennas & Propag.	IEE Proceedings Microwaves Antennas and Propagation
IEE Proc. Rader, Sonar & Navigation	IEE Proceedings Rader, Sonar and Navigation
IEEE Antennas & Prop. Mag.	IEEE Antennas and Propagation Magazine
IEEE Circuits & Devices Mag.	IEEE Circuits & Devices Magazine
IEEE Commun. Mag.	IEEE Communications Magazine
IEEE Commun. Lett.	IEEE Communications Letters
IEEE Comput. Graphics & Appl. Mag.	IEEE Computer Graphics and Applications Magazine
IEEE Intelligent Sys. & Appl.	IEEE Intelligent Systems and Their Applications
IEEE IT Pro.	IEEE IT Professional
IEEE J. Lightwave Tech.	IEEE Journal of Lightwave Technology
IEEE J. Quantum Electron.	IEEE Journal of Quantum Electronics
IEEE J. Solid-State Circuits	IEEE Journal of Solid-State Circuits
IEEE J. Sel. Areas Commun.	IEEE Journal on Selected Areas in Communications
IEEE Multimedia Mag.	IEEE Multimedia Magazine
IEEE Personal Commun.	IEEE Personal Communications
IEEE Phot. Tech. Lett.	IEEE Photonics Technology Letters
IEEE Spectrum	IEEE Spectrum
IEEE Trans. Aersp. & Electron. Syst.	IEEE Transactions on Aerospace and Electronic Systems
IEEE Trans. Antennas & Propag.	IEEE Transactions on Antennas and Propagation
IEEE Trans. Biomed. Eng.	IEEE Transactions on Biomedical Engineering
IEEE Trans. Broadcast.	IEEE Transactions on Broadcasting
IEEE Trans. Circuits & Syst.	IEEE Transactions on Circuits and Systems I II
IEEE Trans. Comput.	IEEE Transactions on Computers
IEEE Trans. Comput. ADIC & Syst.	IEEE Transactions on Computer-Aided Design of Integrated Circuits and Systems(M)
IEEE Trans. Consum. Electron.	IEEE Transactions on Consumer Electronics
IEEE Trans. Electromagn. Compat.	IEEE Transactions on Electronics Compatibility
IEEE Trans. Electron. Devices	IEEE Transactions on Electron Devices
IEEE Trans. Fuzzy Syst.	IEEE Transactions on Fuzzy Systems
IEEE Trans. mage Process.	IEEE Transactions on Image Processing
IEEE Trans. Inf. Thech.	IEEE Transactions on Information Technology
IEEE Trans. Inf. Theory	IEEE Transactions on Information Theory
IEEE Trans. Instrum. & Meas.	IEEE Transactions on Instrumentation and Measurement
IEEE Trans. Knowledge & Date Eng.	IEEE Transactions on Knowledge and Date Engineering
IEEE Trans. Magn.	IEEE Transactions on Magnetics
IEEE Trans. Medical Imaging	IEEE Transactions on Medical Imaging
IEEE Trans. Microwave Theory & Tech.	IEEE Transactions on Microwave Theory and Techniques
IEEE Trans. on Multimedeia	IEEE Transactions on Multimedeia
IEEE Trans. Nucl. Sci.	IEEE Transactions on Nuclear Science
IEEE Trans. on Robotic & Aut.	IEEE Transactions on Robotic and Automation
IEEE Trans. Signal Process.	IEEE Transactions on Signal Processing
IEEE Trans. Syst., Man & Cybernetics	IEEE Transactions on Systems, Man, and Cybernetics
IEEE Trans. Vehicular Tech.	IEEE Transactions on Vehicular Technology
IEEE Trans. VLSI Syst.	IEEE Transactions on VLSI Systems

略 語	雑 誌 名
Image Comm. (Eur.)	Image Communication (Eurasip)
Int. Broadcast Eng.	International Broadcast Engineer
ITE Trans. on MTA	ITE Transactions on Media Technology and Applications
Jpn. J. Appl. Phys.	Japanese Journal of Applied Physics
J. Appl. Phys.	Journal of Applied Physics
J. Magn. & Materials	Journal of Magnetism and Materials
J. J. Opt. Soc. Am. -A,B	Journal of the Optical Society of America-A,B
J. Spacecr. & Rockets	Journal of Spacecraft and Rockets
J. Int. SID	Journal of the Society for Information Display
J. Visual Commun. & Image Representation	Journal of Visual Communications and Image Representation
Lightwave Tech.	Lightwave Technology
Opt. Eng.	Optical Engineering
Opt. Commun.	Optics Communications
Opt. Lett.	Optics Letters
Pattern Recognition	Pattern Recognition
Phys. Rev. B	Physical Review B
Phys. Rev. Lett.	Physical Review Letter
Proc. IEEE	Proceedings of the IEEE
Satell. Commun.	Satellite Communications
SMPTE J.	SMPTE Journal
Solid-State Electron.	Solid-State Electronics
Space Commun.	Space Communication
Vision Research	Vision Research